

We takes commitment

私たちの誇りは、長年にわたり培われた真面目なモノづくりです。

デンツプライシロナは100年以上にわたり、革新的な製品・ソリューションを世に送りだしてきました。その原動力は、より良い、より安全で、より早いデンタルケアを患者さんに提供する、という思いです。トリートメントセンターの歴史において、1956年の「Sirona」ユニットに始まり、1983年の「M1」発売、そして現行の機種に至るまで、その精神は随所に息づいています。今日の「Teneo」「Sinus」「Intego」はまさにその思いが昇華されたシンボリックな機種です。その機能と美しさは、全て患者さんのため、そしてより良い診療のため。しかしまだ私たちは目標に到達していません。常に私たちは、次の目標を目指すスタートラインに立っています。



30*
年間開発数



100年以上
経験と歴史



\$125 Mio.*
年間研究開発費

*Dentsply Sirona全社内における

トリートメントセンターの歩み (一部代表モデルのみ)

1956



Sirona

1983



M1

1994



C1

2003



C8+

2011



Sinus

TREATMENT CENTERS REPORT.

Brånemark Osseointegration Center Tokyo Yataro Komiyama

ブローネマルク・オッセオインテグレイション・センター

小宮山 彌太郎先生



デンツプライシロナ株式会社

本社/〒106-0041 東京都港区麻布台1-8-10 麻布借成ビル

支店・営業所

■札幌支店 Tel: 011-709-5800	■大阪支店 Tel: 06-6243-6636
■仙台支店 Tel: 022-266-4020	■広島支店 Tel: 082-546-2301
■東京支店 Tel: 03-5148-7895	■福岡支店 Tel: 092-518-1800
■横浜支店 Tel: 045-440-1521	■盛岡営業所 Tel: 019-604-2340
■埼玉支店 Tel: 048-799-2931	■庄内営業所 Tel: 0235-29-1217
■名古屋支店 Tel: 052-251-8467	■静岡営業所 Tel: 054-653-2711

BT 6310PD



1965 | 9/29 |

故ブローネマルク教授により、世界で初めて近代歯科インプラントがヒトへ臨床応用された日である。



1983 | 6/7 |

小宮山彌太郎先生により、日本において初めて歯科インプラントが臨床応用された日である。国内での臨床応用から35年以上、日本の歯科界を取り巻く環境は大きく変わり、様々な“研究”や“製品”、“ソリューション”が創出されている今日、歯科医療従事者として真に必要な姿勢について、小宮山先生よりメッセージを頂戴した。



真の医療従事者を志す方々へ — 歯科界の未来を拓くために必要なモノとコト

小宮山 彌太郎 先生

〈略歴〉

1971年	東京歯科大学卒業	1990年	東京歯科大学歯科補綴学第三講座助教授
1976年	東京医科歯科大学大学院修了	1990年	東京歯科大学 辞職
	東京歯科大学 歯学博士	1990年	東京歯科大学歯科補綴学第三講座非常勤講師
	(歯科補綴学専攻 故岡根 弘教授に師事)	1990年	ブローネマルク・オッセオインテグレーション・センター開設
1976年	東京歯科大学歯科補綴学第三講座助手	1993年	東京歯科大学歯科補綴学第三講座客員教授
1977年	東京歯科大学歯科補綴学第三講座講師	2006年	東京歯科大学臨床教授
1980~	スウェーデン・イエーテボリ大学歯学部歯科補綴学、	2006年	神奈川歯科大学客員教授
1983年	および医学部解剖学客員研究員	2011年	日本補綴歯科学会副理事長
	(故ヘデゴード教授、故ブローネマルク教授に師事)	2012年	昭和大学歯学部客員教授
		2014年	奥羽大学歯学部客員教授



我々が対象としているのは、
感情を持った生体組織である。

小宮山彌太郎先生の言葉には、重みと同時に明確さと精密さがある。
対象とは、ある日は自身であり、またある日は自身の身内でもあり得る。
そのような「感情を持った生体組織」と向き合う歯科医療の本質とは何か。

医療において「変わるもの」と「変わらないもの」

時間の経過と共に、治療方法はもちろん、器械や材料も変わってきます。研究者やメーカーは日々様々な開発をしていますから。一方、変わらないもの、しかも未来永劫変わらないものは「人間の治癒にかかる時間」と「ヒトは感情を持っている」という事実です。このことは時として、とても助けられることがあります。そして「20年、30年、40年と、この治療を受けてきてよかったな」と言われることは歯科医師にとってこの上ない喜びです。コミュニケーションがきちんと取れている結果でもあります。患者さんは素人ですから、納得いただくまで患者さんの分かる言葉で話す必要があります。目先ではなくもっと長いタームでコミュニケーションを取るべきです。
あってはならないのは、間違っただけの意味での医療誘導です。例えば、自分の興味、目先の収入、材料、器械ありきで、やりたい治療のために患者

さんを利用する。必要のないインプラント治療へ誘導する。これらは今改めて問われている歯科医師の倫理問題ではないでしょうか。

ブローネマルク・オッセオインテグレーション・センター



大学での教員生活は満足のゆくものでした。一方で、誰にでもオープンで学ぶことのできる場が必要なのでは、とも思うようになりました。当時ブローネマルク教授に相談し、大学を辞することに後悔がないのであれば自身で理想の教育の場、治療を提供する場を作りなさい、と助言を受け、B.O.C.を開設しました。その時の想いは今でも守っています。先人たちの学びを次世代に渡すことが

できれば、若い人たちが無駄な時間を過ごさずに済みます。そして、科学的に証明されたことをしっかりと教え継ぐこと。これこそ科学であり、医療ではないでしょうか。これはメーカーも同様です。十分に検証されないまま新製品がでる。そして販売中止となる、という無駄です。医療にアグレッシブさ、斬新なものは必要ないと思っています。約30年前に当院がオープンしてからその姿勢は全く変わっていませんね。
変わらないと言えば、患者さんの気質もそれほど変わるものではありません。しかし変わっていくものは、患者さんの口腔内状況、全身状態、要求、経済状態、その後の介護条件です。ブローネマルク教授の言葉に「インプラント治療は、患者さんが先に亡くなるか、歯科医師が先に仕事ができなくなるか、そのどちらかまで続くものだから、そのつもりで臨床に接しなさい」とあります。治療に時間を争ってはいけません。患者さんの負担を最小限にして対処することのみを考えなくてはなりません。そうすると、おのずと治療の選択は決まってくるはずで

心ある医療者が、歯科界の未来を拓く

(小宮山彌太郎先生著「埋み火」より)

壊れないことの重要性。壊れることの重要性。

当院では、デンツプライシロナ社のデンタルユニット「Sinus」を導入しています。導入に際し、実際に各社のショールームで自分が座り、患者さんにとって一番快適なポジションが得られるものはどれか、と随分試しました。座面の低さ、シートの固さ、バックレストの回転中心軸、人間工学的デザイン・配置、全てをこの「Sinus」は満たしていました。何よりも「信頼性」が高いことが重要でした。もちろん器械なので細かい不具合、不都合、故障はありますが、その時に如何に早く対処できるか。車のようにすぐに代車を手配する、



医療者とは、歯科医師に留まらず、スタッフ、器械器材を開発・販売するメーカーをも指す。
歯科界の未来を小宮山先生はどう捉えているのか、医療に従事する者に必要なものとは。

という訳にはいきませんよね。また、躯体や中枢回路などに問題が起こると修理が効かない致命傷にもなり得ます。壊れてはいけない所は絶対壊れない、壊れても代替が利くものはすぐに直すことが可能で、そのアフターフォロー体制が整っている。そういった信頼性が「Sinus」には備わっています。実はインプラント治療でも同じことが言えます。インプラントで一番大切なものはインテグレーションを示すフィクスチャーで、万が一、他の部品が壊れても、修理あるいは改造により機能を取り戻せます。

最新は最善か

「Sinus」を言葉にするなら、「これ以上のものは必要ない これ以下のものも必要ない。」
基本がしっかり押さえられているのであれば、むしろ余計なものがあることは、かえって信頼性を落とすことに繋がります。器械があって治

療ができるわけですが、そこに術者と患者さんとの間に、コミュニケーションが取りやすい、術者にとっても患者さんにとっても快適である環境が創られるのは、器械の性能に寄るところが大きいです。もともと私自身は不器用であり、冒険を好まない性格かもしれません(笑)。言い換えれば、蛮勇ではない。戦地ではこの性格は全く役に立ちませんが、医療においては蛮勇をもって挑む行為は絶対に避けるべきでしょう。自身や身内の方がそのような治療を受けたくはないはず。十分に検証され、基礎の煮詰めが成されている器械・器材を、予知性が高いケースにのみ適応する。新しい治療方法、低侵襲を謳うものが多くありますが、先述の通り、この先変わらないものは「人間の治癒にかかる時間」と「ヒトは感情を持っている」という事実です。情報社会においては、とかく新しいもの、新しい情報がもてはやされますが、「感情を持った生体組織を対象とする医療」においては、一歩留まって検証する、問題が無い確認する、追跡する、後始末をする、という姿勢が大事です。



MESSAGE

科学というものには先達が積み上げてきたものであり、それを無視することはとても愚かです。加えて、生体というのは必ず血液によって成り立っている。血液が欠如するようなことを最優先するべきではない、ということです。流行りだからといって、新製品を使う、新しい方法を取り入れる。そこに患者さんという生体を置き去りにしていないかよく考えるべきです。インプラント周囲炎の多くは、ひょっとして歯科医師が生み出しているのかもしれない。製品の選択ときっかけを作っているのは我々だからです。裏を返せば、私どもの仕事は永い。先日、患者さんに「私も年を取ったけど、先生も年を取ったわね」と言われたのが、ものすごくうれしかったのです。この患者さんと長い年月を共に過ごすことができているからです。デンツプライシロナの歴史に沿えば、十二分に考えられたデザインで、耐久性がある、何年経っても部品の供給が滞らない、不測の時は迅速に対処する体制がある。そういった製品が、私が対象とする「感情を持った生体組織」を支えてくれているのです。